



特上の雲海 竹田城跡 (朝来市) 写真提供: 吉田利栄氏

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷義雄
題字 井戸知事

消すまでは
心の警報
ONのまま

平成二十六年新春メッセージ 安全元氣ふるさと

兵庫の実現 井戸敏三



新年あけましておめでとう
ございます。
わが国経済は、円高是正を
背景に輸出産業を中心に明る
さが出てきました。この動き
を地方や中小企業へと広げ、
持続可能な発展につなげてい
かねばなりません。

成熟社会にふさわしい新たな
モデル構築をめざし、挑戦し
ていくときです。

への対応、地域経済の再生、
地震・風水害への備えなど、
取り組むべき課題は明らかで
す。今こそ、これまでに培っ
てきた力を結集し、兵庫から

一つには、安全安心の確保
です。震災二十周年に向けて、
改めて兵庫の経験と教訓を発
信するとともに、地震・津波・
風水害対策に万全を期しま
す。また、社会インフラの長
寿命化や高齢者の地域見守り
の充実など、暮らしの基盤を
確かにします。

の元気づくりです。若者の就
業支援をはじめ、女性、高齢
者、障害者の社会参画を促進
するとともに、大河ドラマ「
軍師官兵衛」のスタートを契
機として内外の交流を拡大し
ます。産業イノベーションの
創出や農林水産物のブランド
化に取り組み、産業力を強化
します。

した兵庫らしい地域づくりを
進めます。そのためにも、地
方分権改革と行財政改革の着
実な推進が欠かせません。

二〇二〇年に東京オリ
ピック・パラリンピックが、
その翌年には関西マスタース
ゲームズ二〇二二が開催され
ます。豊かな自然・歴史・文
化が息つき、多様な産業が躍
動し、そして人々がいきいき
と活動する「安全元氣ふるさ
と兵庫」を実現し、世界へ発
信していかうではありませ
んか。

ふるさとの
未来の課題を
乗り越えて
安全元氣
地域をつくる

新年のあいさつ

公益財団法人兵庫県消防協会

会長 岸谷 義雄



新年あけましておめでとう
ございます。
県下の消防団員・消防職員
の皆様方には、ご家族おそろ
いで輝かしい新年を迎えられ
たことと存じます。
平素は、兵庫県消防協会の
運営につきまして、格別のご
理解とご協力を賜り、心から
お礼申し上げます。また、皆
様が、常日頃、地域の安全・
安心を守るため、日夜献身な
ご尽力をされていることに対

し、心から敬意を表し、深く
感謝申し上げます。
さて、今日、災害や事故が
複雑多様化の傾向を強めてお
り、台風、ゲリラ豪雨による
風水害が後を絶たない状況に
あります。特に昨年は、淡路
島を震源とする地震や台風二
六号災害をはじめ、大きな災
害が相次いで発生しました。
このように全国各地で発生
する自然災害や火災などによ
り、安全・安心に対する県民

の関心は一段と高まりを見
せ、我々消防に寄せられる期
待は、ますます大きくなつて
おります。消防団員並びに消
防職員の皆様方におかれまし
ては、自主防災組織や女性防
火クラブなどの皆様方ととも
に一致団結し、日頃より培つ
た高い技術と専門的知識をい
かなく発揮され、事故や災
害時の市民の生命、身体、財
産の保護に全力を挙げて頂き
ますよう、お願いを申し上げます。

最後になりましたが、皆様
のますますのご活躍とご健
勝、そして、本年が災害のな
い一年でありますことを心か
ら祈念いたしまして、新年の
ご挨拶いたします。

年 頭 の 辞

消防庁長官
大石 利雄



平成二六年の新春を迎え、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防活動にご尽力頂いております。全国の消防関係者の皆様へ、改めて感謝と敬意を表します。

ご臨席の下に盛大に挙行されました。今日、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模地震の発生が危惧される中で、国民の消防に対する期待は益々高まっています。

昨年、夏に各地で記録的豪雨が発生し、一〇月には台風二六号が伊豆大島を襲い大きな被害をもたらしました。また、長崎市の認知症グループホームや福知山市の花火大会、福岡市の有床診療所などにおける火災により多くの方が犠牲になりました。

このように、大規模化、複雑多様化する災害や事故から国民の生命、身体及び財産を守るため、着実に消防防災体制の強化を図る必要があります。

また、一連の火災被害への対応として、高齢者福祉施設等におけるスプリンクラーの設置義務拡大、屋外イベント会場における防火責任者の選定と消火器設置の義務化や有床診療所における防火対策の強化に取り組んでいます。

さらに、当面の大きな課題である「消防の広域化」を積極的に推進し、消防体制を強化するとともに、救急患者の病院搬送の円滑化を図るため「救急と医療の連携強化」を促進して参ります。

関係の皆様方におかれましても、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会
会長 秋本 敏文



新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、平成二六年が皆様にとってよい年でありませう心からお祈り申し上げます。

全国消防団員、職員の皆様は、異常な気象条件がづくなど、心休まる日がないなかで、日夜、地域の安全のためご尽力頂いております。あらためて深く感謝申し上げます。

を仰ぎ、東京ドームにおいて、消防団一〇〇年・自治体消防六五周年記念大会を開催いたしました。大会冒頭、陛下にもご参加頂いて、東日本大震災などで殉職された御霊に対し、深く哀悼の誠を捧げる黙禱を行いました。

援団の皆さんなどによる土気高揚の歌など盛り沢山でしたが、本場に多くの方々のご協力のおかげで無事終わることができました。深く感謝申し上げます。

今回の大会の特色は、百年以上にわたる日本消防の歩みを振り返りながら、将来に向かって、あらゆる災害・事故に対処する我が国消防の一層の体制強化に邁進する決意を明らかにする点にあります。

一方、臨時国会において「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。これは、平成二四年二月、日本消防協会において決定し、各方面に要請した意見が基礎になつておると申しあげてもよいかと思ひますが、消防団の重要性を明記するとともに、消防団の装備の充実、団員の処遇の改善など消防団に対する支援の方向づけを示し、さらに、消防団が中核となつて地域の防災力を強化する具体的な施策を定めるものであり、日本消防史において画期的な意味をもつものだと思います。

消防団員、職員の皆様の益々のご健勝ご多幸をお祈り申し上げて新年のご挨拶いたします。



～ 謹んで新春のご挨拶を申し上げます。 ～

公益財団法人
兵庫県消防協会

平成二六年元旦

- | | |
|---------|---------|
| 総 裁 | 井 戸 敏 三 |
| 副 総 裁 | 吉 本 知 之 |
| 名 譽 会 長 | 関 山 功 |
| 会 長 | 岸 谷 義 雄 |
| 副 会 長 | 北 井 道 男 |
| 岸 本 重 男 | 一 井 三 好 |
| 前 田 昭 廣 | 中 西 君 一 |
| 田 中 旭 | 浄 慶 康 治 |
| 北 山 正 | 榎 本 一 博 |

平成25年 秋の叙勲(消防関係)伝達式

平成25年11月3日付けで秋の叙勲が発令されました。

叙勲を受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等から防ぎよするとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展及び、社会公共の福祉の増進に寄与された消防関係者の方々です。
受章者数は全国で六三三

名、兵庫県では二五名が叙勲の栄に浴されました。

秋の叙勲伝達式は、平成25年11月7日(木)午前一時一五分より藤川総務大臣政務官出席のもと、ニッショーホールにて盛大に挙行されました。伝達式では、藤川総務大臣政務官から式辞、勲記・勲章の伝達等が行われました。



受章者の皆さん

〈兵庫県下受章者(消防功労)〉

◎瑞宝小綬章

元神戸市
消防正監 岡内 久明



元神戸市
消防司監 田野 育利



◎瑞宝双光章

元尼崎市消防団
団 長 井内 進



元太子町消防団
団 長 嶋澤 清美



元豊岡市城崎消防団
団 長 日生下慎一



元春日町消防団
団 長 松山 修治



元神戸市
消防正監 森井 賢治



元豊岡市竹野消防団
団 長 山根 昌勝



元西宮市消防団
団 長 吉田 昭光



◎瑞宝単光章

元加古川市消防団
分団長 池上 正光



元相生市消防団
分団長 内海 康富



元姫路市姫路西消防団
団 長 金澤 孝



元明石市消防団
分団長 五藤 晴敬



元篠山市消防団
副団長 杉原 恭民



元尼崎市消防団
副団長 塚尾 隆作



元たつの市消防団
副団長 塚本 幸雄



元加古川市消防団
分団長 堤 昇一



元赤穂市消防団
分団長 釣本 清司



元神戸市西消防団
副団長 野口 義美



元但東町消防団
団 長 福田 隆



元芦屋市消防団
副分団長 細見 正志



元姫路市飾磨消防団
分団長 前畑 義弘



元西宮市消防団
分団長 松本 収



元朝来市消防団
分団長 吉成 惠



元神戸市北消防団
副団長 山田 洋



第二回 危険業務従事者叙勲 (消防関係)



受章者の皆さま

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。

全国で瑞宝双光章一、七一〇名、瑞宝単光章一、九〇五名、計三、六一五名の方々が受賞されました。兵庫県では、二三名の消防職員の方々が受章されました。

兵庫県下受章者

◎瑞宝双光章

元姫路市 消防監 上野 耕司

元西宮市 消防監 大坂 修二

元淡路広域消防事務組合 消防司令長 大継 敏男

元西宮市 消防監 大坪 成一

元神戸市 消防監 掛井 貞男

元川西市 消防司令長 春日 良隆

元宝塚市 消防監 久下 等

元伊丹市 消防正監 武内 恒男

元伊丹市 消防監 照屋 盛正

元明石市 消防司令長 永田 英和

元加古川市 消防監 西山 哲翁

元神戸市 消防正監 野辺 三郎

元神戸市 消防正監 松尾 公嗣

元姫路市 消防監 松本 修

元小野市 消防司令 石井 泰裕

元篠山市 消防司令長 大前 良太

元たつの市 消防司令 長方 伸行

元尼崎市 消防司令長 小林 洋一

元芦屋市 消防司令 里井 健一

元加東行政事務組合 消防司令 藤原 健治

元三田市 消防司令 前川 正一

元三木市 消防司令 吉村 敏郎

元高砂市 消防司令長 米澤 清三

◎瑞宝単光章

元姫路市 消防監 松本 修

元小野市 消防司令 石井 泰裕

元篠山市 消防司令長 大前 良太

元たつの市 消防司令 長方 伸行

元尼崎市 消防司令長 小林 洋一

元芦屋市 消防司令 里井 健一

元加東行政事務組合 消防司令 藤原 健治

元三田市 消防司令 前川 正一

元三木市 消防司令 吉村 敏郎

元高砂市 消防司令長 米澤 清三

平成二五年 秋の褒章伝達式 (平成二五年二月二三日)

消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方に授与される藍綬褒章は、全国で八〇名、うち兵庫県では、姫路市家島町消防団の上田辰雄団長、神戸市須磨消防団の高木優和団長が受章の栄誉に輝きました。

伝達式は、平成二五年一月三日(水)、スクワール麴町にて関口総務副大臣出席のもと、盛大に挙行されました。



姫路市家島町消防団 団長 上田 辰雄



神戸市須磨消防団 団長 高木 優和

平成二五年版 消防白書

消防白書

消防庁

消防庁から平成二五年版消防白書が公表されました。消防白書は、火災をはじめとする各種災害の実態、消防防災行政について、豊富なデータとともに現況や課題を解説する年次報告書です。消防活動について、国民の理解を求め、毎年刊行されております。

平成二五年版消防白書は、二部構成で、緊急消防援助隊の即応体制の強化、消防団の充実強化、最近発生した火災の状況や踏まえた防火安全対策の徹底などについて記述した特集と、火災や風水害を初めとする各種災害の状況と課題、消防防

災の組織や活動等について記述した本編で構成されております。

消防白書は、消防庁のホームページに掲載されるとともに、政府刊行物センターや主要書店などで販売されております。是非、まだお目にふれたことがない方もある方も、一度ご覧になってください。



消太

〔消防庁HP〕
<http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h25/h25/index.html>

消防団二二〇年。 自治体消防六五周年記念大会開催

(公財)兵庫県消防協会

平成二五年一月二五日(月)東京ドームにて、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、約三七、〇〇〇人の消防関係者が集い、消防団二二〇年・自治体消防六五周年記念大会が盛大に挙行されました。

本県からも約八五〇名の消防関係者が参加し、消防人として、更なる技術の向上、消防体制の発展と充実強化を胸に、決意を新たにしました。

式典では、秋田治夫日本消防協会副会長の開式の辞から

始まり、秋本敏文日本消防協会長の式辞に続いて、消防職団員等の表彰式、安倍晋三内閣総理大臣をはじめとする多くの来賓の祝辞がありました。また、式典開始前には、木遣りや纏振り、梯子乗りなどの伝統消防演技も披露され、本県からはたつの市消防団が、力強い纏振りを披露しました。

式典終了後の第二部では、消防実技の披露が行われ、第一部では、消防音楽隊、カライガード隊のみなさん、幼年消防クラブ鼓笛隊のみなさん、AKB48のみなさん、布施明さん、そして消防応援団の菅原文太さんや水前寺清子さんのパフォーマンスにより、大会が更に盛り上がりました。

この法律において、将来にわたる消防団が地域防災力の中心として欠くことができない代替性のない存在と明記され、消防団員の確保、処遇の改善、装備や教育訓練の充実について、国及び地方公共団体は必要な措置を講ずることとされました。

また、消防庁において消防団充実強化対策本部が立ち上げられ、消防団の充実強化を強力に推進していく体制がとられています。

この法律において、将来にわたる消防団が地域防災力の中心として欠くことができない代替性のない存在と明記され、消防団員の確保、処遇の改善、装備や教育訓練の充実について、国及び地方公共団体は必要な措置を講ずることとされました。

また、消防庁において消防団充実強化対策本部が立ち上げられ、消防団の充実強化を強力に推進していく体制がとられています。



大会の様子

【消防未来宣言】

日本消防は百年以上にわたる先人のご尽力によって発展し、今日広く信頼を得るに至っている。

私たち消防人は、自らの地域は自ら守るといふ先人の熱い思いを受け継ぎ、国民の皆さんのご理解ご協力のもと、全国一致団結し、新しい技術等も積極的に導入しながら、少年、女性を含む地域住民の皆さんとともに、より強固な未来の日本消防づくりにまい進する。そうして社会経済の進展に伴い変化を見せるあらゆる災害事故に対処し、国民の安全を守るため、全力を尽くすことを固く誓い、ここに宣言する。

消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律概要

1. 目的・基本理念等

- 消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、もって住民の安全の確保に資することを目的とし、地域防災力の充実強化は、消防団の強化を図ること等により地域における防災体制の強化を図ることを旨として実施(1~3条)
- 地域防災力の充実強化を図る国及び地方公共団体の責務(4条)
- 住民に対する防災活動への参加に係る努力義務(5条)
- 地域防災力の充実強化に関する関係者相互の連絡及び協力義務(6条)
- 地域防災力の充実強化に関する計画・具体的な事業計画の策定義務(7条)

2. 基本的施策

(1) 消防団の強化

- 消防団を「将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在」と規定(8条)
- 消防団への加入の促進
 - ・意識の啓発(9条)
 - ・公務員の消防団員との兼職に関する特例(10条)
 - ・事業者・大学等の協力(11・12条)
- 消防団の活動の充実強化のための施策
 - ・消防団員の処遇の改善(13条)
 - ・消防団の装備の改善・相互応援の充実(14・15条)
 - ・消防団員の教育訓練の改善・標準化、資格制度の創設(16条)

(2) 地域における防災体制の強化

- 市町村による防災に関する指導者の確保・養成・資質の向上、必要な資機材の確保等(17条)
- 自主防災組織等の教育訓練において消防団が指導的役割を担うための市町村による措置(18条)
- 自主防災組織等に対する援助(19条・20条)
- 学校教育・社会教育における防災学習の振興(21条)

※施行：公布日(平成25年12月13日)
ただし、地区防災計画関係は平成26年4月1日、兼職に関する特例は公布から6月を経過した日

「消防団を中核とした地域防災力の 充実強化に関する法律」の公布・施行

消防団は、地域防災力の中心として大きな役割を果たしてありますが、近年の社会環境の変化等から、消防団員数の減少、消防団員の高齢化など、様々な課題に直面しており、地域における防災力の低下が懸念されています。

この法律において、将来にわたる消防団が地域防災力の中心として欠くことができない代替性のない存在と明記され、消防団員の確保、処遇の改善、装備や教育訓練の充実について、国及び地方公共団体は必要な措置を講ずることとされました。

また、消防庁において消防団充実強化対策本部が立ち上げられ、消防団の充実強化を強力に推進していく体制がとられています。

また、消防庁において消防団充実強化対策本部が立ち上げられ、消防団の充実強化を強力に推進していく体制がとられています。

平成二五年一月三〇日(水)、第一九回全国女性消防団員活性化ぎふ大会が岐阜県高山市「飛騨・世界生活文化センター」において盛大に開催され、全国から約二、七〇〇名の女性消防団員等関係者が参加されました。

本大会は、女性消防団員の日頃の活動やその成果をアピールするとともに、意見交換や交流を通じて連携を深めることにより、女性消防団員の活動がより一層、活性化することを目的とされており、今大会では、「伝統を守り、未来を拓く、われら女性消防団」をテーマに、全国女性消防団員が一堂に会し、日頃の消防団活動や取り組みについての発表や地域をこえた情報交換が行われ、活気ある大会となりました。

兵庫県からも多数の女性消防団員が参加し、参加された方々は、今後の活動に繋げていけたらと決意を新たにされておりました。

消防団で「ピックアップ」

『神戸市北消防団の小型動力ポンプ 三台が更新配置』

神戸市北消防団

神戸市北区は昭和四八年八月に兵庫区から分離してできた区で、本区・山田・有馬・有野・道場・八多・大沢・長尾・淡河町からなっています。面積は二四一・七平方キロメートルで全市の四四%を占め、垂水区以外の各区及び芦屋市、西宮市、宝塚市、三田市、三木市の五市と境界を接し、人口は分区当初一六、七三九人でしたが、団地開発が進むにつれ人口が急増し、

現在では約二倍に達しています。この神戸市北区を管轄している北消防団は、八支団六七分団(班)一、三六〇名で構成され、各分団(班)に消防団積載車及び小型動力ポンプが配置されており、「自らの地域の安全安心」を守るため幅広く活動しています。さて、去る一二月八日(日)小型動力ポンプの更新配置に伴う引渡しが神戸市民



説明を聞く神戸市北消防団の皆さん

防災総合センターにて行われ、北消防団では有野支団第三分団第一班、八多支団第六分団第二班、長尾支団第二分団の小型動力ポンプ計三台が更新されました。

各分団(班)では毎月二回機械器具点検を行っているものの、現行の小型動力ポンプはいずれも平成七年製で一八年を経過しているため、故障や不具合が絶えない状況でした。これからも更新配置された小型動力ポンプはもとより機械器具等の適正な維持管理に努めるとともに、地域の防火・防災にご尽力いただきますようお願いいたします。

小型動力ポンプの装備は下記のとおりです。

- 一 小型動力ポンプ
- (1) トーハツ可搬消防ポンプ(四サイクル) VF53AS

- (2) 検定出力…22キロワット
- (3) 規格放水性能…一・一三立方メートル/分/〇・五五パスカル

二 付属装備品

- ・ 吸管七五A×4メートル(第一種検定品)二本【ストレーナー、籐かご、吸管ロープ、吸管枕木 各一】
- ・ 中継(七五ミリメートルネジメス×六五ミリメートル差込オス)一個
- ・ 媒介金具(五〇ミリメートルメス×六五ミリメートルオス、六五ミリメートルメス×五〇ミリメートルオス 各一個)
- ・ 消火栓用ソフト吸管(四メートル)一本、手かぎ一本
- ・ 管槍 一本
- ・ ノズルチップ(可変噴霧ノズル)一個
- ・ 照明灯(三脚付)

『地域に密着した活動を』

西宮市消防団

西宮市消防団は、明治時代に消防組が創設され、大正一四年の市制施行以後、旧町・村との合併を重ねながら、消防団に改組、昭和二三年に消防団が結成されました。

その後、西宮市と鳴尾村・有馬郡山口村・塩瀬村が合併され、一本部二六分団に、昭和五六年の組織改編により、現在の一本部三分団となり、条例定数は七五五名です。

西宮市は、瀬戸内海に面し、六甲山系を背後に、市域一〇〇平方キロメートルの瓢箪型の地形です。消防団では、旧村の区域を引き継ぎ、市内を七地区で編成し、それぞれに二、六分団一〇〇名の団員で構成され、各地区の副団長七名と消防団長で消防団本部

の運営を行っています。また、平成二〇年度には、消防職員・団員OBによる、機能別消防団が結成されました。

装備は、各分団・班にCD-I型ポンプ車三八台、加えて、山間部を担当する分団に可搬式ポンプ二台を配備しています。阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、エンジンカッターやチェーンソーなどの救助資機材が整備されており、現在は、南海トラフ巨大地震への対策として、救命胴衣やトランシーバーの充実に力を注いでいます。

消防団の行事は、研修関係では、春先に新入団員研修、班長昇任者に対する新幹部研修、機能別団員研修を、訓練関係では、毎月の定例訓練に加えて、各地区と消防署との合同訓練を年二回、各地区代表によるポンプ操法大会などがあります。

昨年度からは、新たに兵庫県消防学校の「現地訓練」を申し込み、今年度も一二月に、約一〇〇名の団員が、訓練礼式を実施しました。日頃は管轄の消防署員から指導を受けていますが、学校教官から直接指導頂く貴重な機会でしたので、事前に練習に励み、当日は、多少緊張しながらも、積極的に質問するなど、有意義な訓練となりました。

前述した以外にも、警戒業務として、春秋の火災予防運動、年末特別警戒があります。西宮市独自の行事では、西宮ハーフマラソンやにしのみや市民祭り、また西宮戎(えべっさん)、門戸厄神の

祭礼警備にも、関係機関と連携しながら、消防団員が警備を行っています。また、各地域では、小学校のお祭りや各種イベント、防災フェアなどに分団単位で参加し、警備の傍ら、消防団のアピールや防火広報に努めています。消防自動車に集まってくる子供たちと写真を撮ったり、膝をついて話を聞いたり、団員達にとっても、地域の方々との交流できる場があることはうれしい限りです。自主防災会への訓練指導も

様々な活動を通して、消防団と地域の連携強化を図ることが、災害に強い街づくりにつながります。消防団は、地域防災の要として、これからも地域に密着しての活動を続けて参ります。



訓練の様子



平成25年12月1日実施 兵庫県消防学校現地訓練の様子

わが町の団長さん

「市民と歩む 消防団長」

丹波市消防団長

岩澤 宏一



岩澤団長は面倒見がよく、団員からも慕われる温厚な人柄ですが、制服に腕を通したとたんに「消防人」に変身されます。そんな人柄を買われ、団長選考委員会においても満場一致で選出され、平成二五年四月一日に団長に就任されました。

縫製工場を営まれる団長は、昭和五七年に旧市島町消防団に入団され、自営業という強みに加え、奥様の内助の功、そしてご家族の絶大な協力を得られ、地元に着した消防団活動を展開されてきました。

火災現場での陣頭指揮はもとより、予防消防に力を注いでおられ、団の年間事業計画において、新入団員訓練、機関科訓練、予防科訓練、礼式訓練、操法訓練などを計画的に実施され、団員の消防技術の向上や士気の高揚を図られています。

また、近年は火災だけでなく巨大化する台風やゲリラ豪雨への対応も必要となつていくことから、水防工法の訓練を実施するなど新時代に即した消防団活動を実践されていますが、これからは自主防災組織など地元住民と連携した活動を実践することが大切であると考へ、地元に着した分団単位の訓練に力を注いでおられます。

最後になりましたが、昨年の第二一回全国女性消防操法大会に丹波市女性消防隊が兵庫県代表として出場させていただきました。出場に際し、県下消防団の皆さまから多くの激励をいただきましたことを、紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

可郡三町が合併し誕生しました。合併後、一四分団、六七部、団員数一、二七人が在籍し、車両数は、普通ポンプ車一五台、水槽付ポンプ車一台、小型動力ポンプ積載車五〇台の計六六台で活動しています。

「信頼・絆・郷土愛」

多可町消防団長

植山 保信



多可町は、兵庫県の中央やや東に位置し、面積一八五・一五平方メートル、人口二二、八七一人で、多可町は三つの「発祥の地」です。

一つに酒米の最高峰の「山田錦」発祥の地、一つに日本一の手漉き和紙「杉原紙」発祥の地、一つに継承すべき精神「敬老の日」発祥の地の町です。

多可町消防団は、平成の大合併で平成一七年一月に多

可郡三町が合併し誕生しました。合併後、一四分団、六七部、団員数一、二七人が在籍し、車両数は、普通ポンプ車一五台、水槽付ポンプ車一台、小型動力ポンプ積載車五〇台の計六六台で活動しています。

植山団長は、昭和六一年四月に旧八千代町消防団仕出原分団（現多可町消防団第一二分団仕出原部）に入団され、平成一六年四月に副団長に就任、合併後も副団長として活躍され、平成二五年四月に第三代目の消防団長に就任されました。

団長は、「予防消防の大切さを常に団員個々への指導に心掛け、備えることで迅速な災害対応が図れる」との信念を持っておられます。

多可町消防団は、消防団活動に大変熱心な町です。特にポンプ操作が盛んな町であり、ポンプ車の部、小型ポンプの部共に県大会出場常連町でもあります。

ここ数年、県大会では三位以内に入賞していますが、あと一歩のところまで涙を飲んでいきます。

また、多可町消防団OBである多可郡まとい会の方々から「郷土の誇り」の横断幕を寄贈していただいたので、平成二六年度の兵庫県消防操法大会で優勝し、「全国大会出場!!」と闘志を燃やされています。

こんな地元をこよなく愛される植山団長には、今後も健康に留意され、地域住民が安心して暮らせる街づくりに益々ご活躍されることを期待しております。

がんばってます、女性消防団員

『朝来市消防団女性団員として』

朝来市消防団 班長

藤井 美保



私は消防団員に入団して一年目となり、今では班長という役職までいただくようになりました。

入団のきっかけは同級生からの誘いもありましたが、阪神・淡路大震災を経験し、消防団や自衛隊の活動に強く心を打たれたからです。

今では四七名に増え、女性団員の存在も大きくなりました。主な活動は出初式や消防操法大会等の司会や運営のお手伝いなのですが、女性ならではの観点から、何かできることはないかといつも考へておられます。

そんな若い女性団員の活躍が、時には男性団員の力になっているのかもしれないですね☆

消防団の活動はあまり派手ではなく、地道な活動ですが、市民の皆様と安全・安心に繋がります。若い生命と財産を守っていくのだと感じています。

少子高齢化が進み、地域力の希薄化が問題となつていきます。地元地域の方が声を掛け合い、存在を確かめ合うような何気ない日頃からの目配りも忘れないよう、心がけていきたいと思っております。

われら 若手消防団員

～入団して思うこと～

篠山市消防団 第17分団
小倉 雄司



「若手」と言われると、若干の違和感を覚える年齢になっていきますが、このたび、地域の団員の方から声をかけていただき、今年度から消防団員として活動することになりました。

消火栓の位置すら完全に把握できていない中ですが、火災現場への出動や台風時の土嚢の設置・回収など、今年度に入ってからすでに数回の出動を経験いたしました。まだまだ至らないところばかりで、出動するたびに消防活動における消防団の存在意義や、災害時における消防団の役割などを実感しているところです。

また、新しい地域に引っ越してきた私にとっては、消防団に入団することにより、団員の皆さんをはじめ、地域の方々と接する機会も増える良いきっかけとなりました。そのおかげで、この地域に早く溶け込むことができ、さらには地域の一員として活動できるこ



とに喜びも感じています。地域のことを知るといことは、消防団活動においてとても大切なことだと思っております。

これまで長年にわたり受け継がれてきている消防団員のバトンを受け取つた今、この地域の一人として「地域を守る」ため、一人前の消防団員として活動ができるよう努力していきたいと思っております。

地域のお知らせ

姫路市家島町

家島町

姫路市家島町消防団は、姫路市内八消防団のうちの一消防団で、体制は上田団長以下宮分団・真浦分団・坊勢分団・男鹿分団の四分団、定員一七〇人、管轄区域は内海航路の要衝でもある「家島諸島」で、その家島諸島は姫路港から南西約一八キロメートル沖合に点在する四〇余りの島々と岩礁からなる播磨灘唯一の雄大な景観と歴史を秘めた島々で、瀬戸内海国立公園に指定されています。

○「いえしま」の名称
初代神武天皇が、九州より高島宮を経て大和橿原の地へ向かわれる途上、当地へ寄港になられたところ、そのときの港内が風波穏やかで、あたかもわが家のように静かであったので「いえしま」と名付けられたと伝わっています。奈良時代の地誌「播磨風土記」や「万葉集」にも「いえしま」の名を見ることが出来ます。



家島神社



天神の森

家島神社のはじまり

家島諸島各地から縄文遺跡・弥生遺跡が確認されています。先人達が集落を形成し古くから、家島において住居を構えていたことが推定されます。およそ祭祀のはじまりは、人々の生活と共にあると考えられています。社伝では、家島神社は神武天皇が武運長久と海上航海の安全を祈願して天神をお祀りしたときに始まるとされています。神社のある山は、「ゆるするの山」とよばれており、それは、神功皇后が戦勝祈願をされた祭、全山鳴動したためであると言われています。

式内社と名神大社

家島諸島総鎮守である家島神社は、国家鎮守の神として承和七年（八四〇年）官社に列せられたと「続日本後期」にあり、また「延喜式神名帳」には名神大社として、その名が連ねられています。「式内社」とは、平安時代に制定された由緒ある神社のこと、その数は全国で三三三二座あります。その内、四九二座を「大社」として格付け

し、その「大社」の中でも特に、由緒正しく崇敬顕著な二八五座の神社を「名神大社」と規定しています。家島神社は、式内大社であると同時に名神大社でもあります。

例祭

(夏祭り)

七月二四日、二五日の両日家島神社夏祭りが行われています。

まず、二四日の宵宮祭りは、提灯行列を行います。宮浦神社で採火された御神火を頂き、家島神社まで夜詣でします。この宮浦神社での御神火を家島神社に移して宵宮祭りが始まります。

翌日の昼宮祭は、獅子及びだんじり船がお祭りを華やかに盛り上げています。宮・真浦両地区がそれぞれ保有しており、真浦の獅子舞は兵庫県重要無形文化財に指定されています。大祭では、巫女による神楽舞も奉奏されます。



獅子舞



だんじり船



だんじり船

編集後記

新年あけましておめでとございます。厳しい寒さが続いています。皆様方におかれましては、年が改まり、決意も新たに消防団活動に取り組んでおられることと存じます。

さて、今月号では、各消防関係団体の年頭の挨拶、秋の叙勲・褒章伝達式、消防団一〇〇周年の記念式典の記事等を掲載しております。

また、昨年の十二月、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が議員立法により成立したことから、国においては、消防団の充実強化を図るために消防団充実強化対策本部が設置されました。本協会といたしましては、消防団の一層の充実・発展にむけて消防団の活動をサポートしていく所存です。

本年も「兵庫消防」のご愛読をどうぞよろしくお願い申し上げます。

